



Vol. 26 No. 2 (No. 293) 2016. 7. 27

東洋英和女学院大学図書館

## インセンティブ！

7月からロバート・ゴードン (Robert Gordon) の *Rise and Fall of American Growth* (2016年、Princeton University Press) を読んでいます。1870年から1940年までのアメリカの経済と社会を説明するのが第1章であるが、それによると19世紀末に起こった発明と技術革新がアメリカの社会経済基盤を強化して、経済は大発展していく。具体的には、馬車から石炭エンジンの時代へ、そしてガソリンの時代へ移りまさに経済は爆発的に拡大していった。鉄道、自動車、飛行機が人々の移動を手伝い、移民と移住が急増加。移民は皆、子沢山である。人口は1870年に3700万人だったのが30年後の1900年に倍増し7000万人となる。電力消費が急激に増加。夜の家は電球で明るくなった。ニューヨーク市の地下鉄は1904年にはすでに時速40マイル (時速64キロ) で走ったそうだ。郵便システムが発展し、電話通信網が拡大。ラジオは1920年代に急増加し情報は短時間で大衆へ届くようになる。人の移動が激しくなった結果、交通事故も急増。そして劣悪で非衛生的な都市の住居環境も一時放って置かれたが (医療サービス、衛生サービスが経済成長に追いつかなかったようだ)、上下水道の発達、水洗トイレの普及、温水暖房の設置は、家庭の衛生環境の改善に多いに貢献した。ゴードンは、この本で、今では基礎的に見える発明がもたらした爆発的な力が、インフラなどの社会基盤を作り上げアメリカ経済の急成長を実現したが、その一方、後の経済成長の鈍化は、当初の社会基盤を作り上げた発明ほどの爆発力を持つ発明がない結果なのでそれほど驚くべきものではない、ただ、現代で心配なのは社会を侵食する格差、負債、高齢化なんだ、と数字を使って説明する。

さて、3年ゼミでは、アセモグルとロビンソン (Daron Acemoglu & James Robinson) の『国家はなぜ衰退するのか』 (原文は *Why Nations Fail*, Crown Business, 2012) を皆で読んでいます。沢山の人が参加できる包括的な政治制度を基礎として包括的な経済制度を作り上げる繁栄の成功例と、一部のエリートが大多数を収奪する政治制度とともに発生する収奪的な経済制度 (奴隷制度や汚職など) が国家を衰退させていく例が満載である。包括的な制度は発明を促し、個人の財産を保護し、社会の公平さが最重要な価値であると主張し続ける。この本では、制度から発生するインセンティブという刺激を人間一人ひとりが受けるとそれに素直に反応する、という人間の素っ裸な本性が世界中の例を使って説明してある。ゴードンの本もアセモグルとロビンソンの本も、この人間の本性を淡々と描くが、同時に無数の個人がそれぞれの小さなインセンティブに反応している日常に対し、時

には大発明、ペスト、戦争などの社会的ショックがぶつかるように起こっていくことで制度は変化し、社会の発展の方向が変わっていく躍動的なプロセスを教えてくれる。政治と経済を貫く制度から発生するインセンティブという切り口から人間の行動を見ると、複雑怪奇な人間が少し理解できる気がする。では個人のインセンティブと組織のインセンティブは違うのだろうか、国家間や国際機構など国際システムのインセンティブはどうだろうか、そして連帯感、正義感、怒り、恐怖などの社会を動かす集団的な力はインセンティブという切り口でどう説明できるのだろうか、と疑問が絶えない。東洋英和に着任して4ヶ月。インセンティブをめくり学生と考える幸せを感じている毎日である。

(国際社会学部教授 河野毅)



## ブックレポートから『読書の森へ』

図書館では2012年度から、フレッシュマンセミナーで1年生ほぼ全員にブックレポートを書いてもらっています。

あらすじ200字・推薦文200字と、レポートとしては非常にコンパクトなサイズですから一見サクッと簡単に書けそうですが、短いからこそ言葉選び、まとめるセンスが求められることを実感された学生も多いかと思います。

提出されたブックレポートは、図書館職員が剽窃、誤字・脱字などをダブルチェック、コメントもなるべく加えてからお戻ししています。そのため皆さんのお手元に戻るのが少し遅くなりますが(すみません)一つ一つ、丁寧に目を通して頂いています。

ブックレポートのチェックはなかなか大変な作業ですが、それを上回ってうれしいのはキラリと光る素敵なレポートとのめぐり合いです。

そして今年も、その優秀なブックレポートを『読書の森へ(2016年7月中公開予定)』として図書館ウェブサイトで紹介する予定です。(ただいま準備中)

夏休み中読む本選びの参考にもなるかと。どうぞお楽しみに！



## 図書館にこんなのがあったらいいな！ ~~~ Library Tree ~~~

1F エントランスにある“Library Tree”（自由に意見を貼れるボード）（下・左）では、「図書館にこんなのがあったらいいな」というさまざまなご要望を募集しています。本、雑誌、DVD など資料のことだけでなく、設備や利用方法に関することなど何でも構いません。日頃、図書館を利用しているときに気が付いたこと、思ったことなどをどんどん寄せてください。

実現可能な事柄から取り組んでいます。その中の一つ、「緊急通話スペース」を1F北側、B1Fアルファウイングに設置しました。（下・右2枚）



## 博士論文第9号！！

今年3月、本学で9号めになる博士論文が提出されました。

図書館ウェブサイト→「東洋英和女学院大学学術リポジトリ」

→「博士論文」からアクセスできます。ぜひ見てみてください！

また、冊子体の1号から7号は大学図書館・大学院図書室にて閲覧できます。



Click!



▶ 東洋英和女学院大学学術リポジトリ



## 夏の図書館の予定

### 大学図書館

8月1日(月)～4日(木)	通常開館(8:50～20:00)
5日(金)・22日(月)～31日(水)	短縮開館(9:00～17:00)
8日(月)～19日(金)	閉館
14日(日)・28日(日)	見学開館(10:00～16:00)
*オープンキャンパス	
9月1日(木)～16日(金)	短縮開館(9:00～17:00)
18日(日)	見学開館(10:00～16:00)
*オープンキャンパス	
19日(月)～30日(金)	通常開館(8:50～20:00)
*19日(月)・22日(木)は通常開館します	
*26日(月)夏期貸出最終返却日	

### 大学院図書室

大学院図書室の開室時間は、通常開室 14:00～21:45（土曜日 9:00～19:30）、短縮開室 14:00～20:30（土曜日 9:00～18:00）です。

8月1日(月)～10日(水)	閉室
12日(金)～31日(水)	短縮開室
9月1日(木)～16日(金)	短縮開室
19日(月)～30日(金)	通常開室
*3日(土)・10日(土)は入試のため、17日(土)は学位授与式・入学式のため閉室します	
*19日(月)・22日(木)は通常開室します	



時代の大きな変化の中で、図書館も従来のサービスに加え、新しいサービス形態が求められています。職員・スタッフ共にアイデアを絞り出し、これからの図書館のあり方を日々模索しています。お気づきになった事やご要望などがありましたら、どんどん図書館へお寄せください。

編集担当：横田